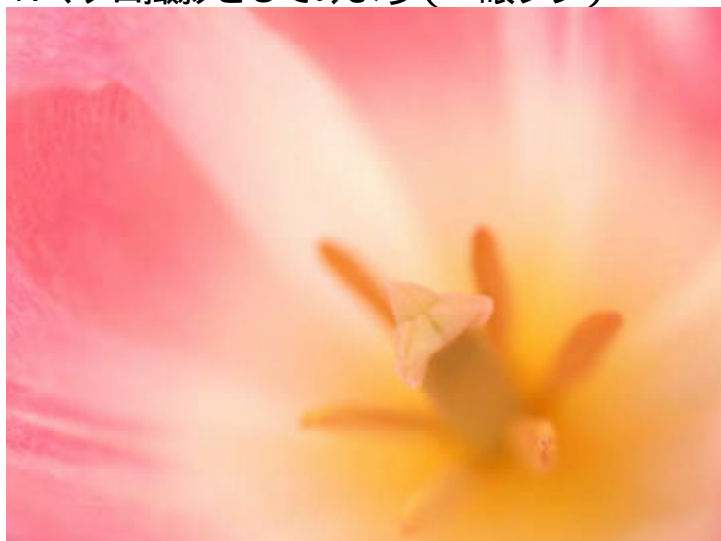


## マクロ撮影をしてみよう

### 1. マクロ撮影をしてみよう（一眼レフ）



一眼レフのレンズをマクロレンズに交換して撮影してみましょう。

マクロレンズが無い場合は、標準レンズの最短撮影距離付近で撮影しましょう。

こちらは雌しべにピントを合わせ、雌しべ以外はぼかすように、絞り開放で撮影したものです。

マクロレンズを使用し、見て欲しい箇所一点にのみピントを合わせ、それ以外をぼかしました。



雨中のばらを、マクロレンズの絞り開放で撮影しました。

花びらの一番手前にピントを持ってきました。

背景が離れてるのと、雨がかなり激しく降ってきてるところを撮影したので、背景もきれいにぼけました。



ハスの花びらの先端にのみピントで、それ以外をぼかしました。

一眼レフでのマクロ撮影の肝は「キリとしたピント」と「やわらかなぼけ」につきます。  
正確なピント出しとぼけをマスターするための練習をこれから始めましょう。

## 2. 定規を撮影してみよう（一眼レフ）



カメラを、定規に対して約45度位にセットし、定規の88の中心の紺色の矢印の先にピントを合わせてください。

（定規は、当日私が持参します）

オートフォーカスでもマニュアルフォーカスのどちらでも良いのですが、88の中心を指している紺色の矢印の先端に、正確に合わせてください。

またカメラの撮像素子と定規は平行になるようにしてください。

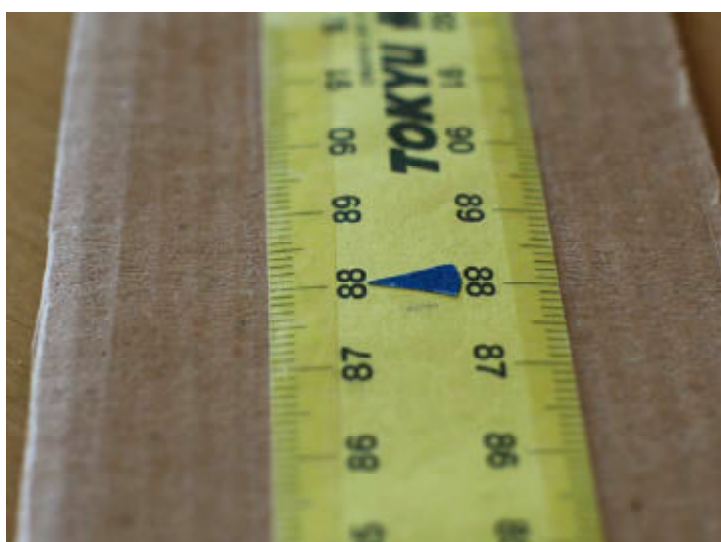


これは、絞りF2.8で撮影しました。

ピントの合って見える範囲が88を中心に、上下は、約5mm程度が、ピントが合っている範囲となりました。

また左右は、約5mm幅で画面の左から右までピントが合っています。

カメラの撮像素子と定規を平行に近い形で撮影すると、このようになります。



これは、絞りF5.6で撮影しました。

約1cm程度がピントの合って見える範囲ですが、絞りをF5.6にしたことでぼけかたも少なくなっていました。

レンズの絞値によって、ピントの合う範囲とぼけかたが、大きく変わることが実感できたのではないのでしょうか。実際の撮影で、ピントの合っている所とぼけ具合とのバランスをとるには、絞りを開けて撮影することになります。しかし、絞りを開けると、今度はピントの合う範囲が極端に狭くなって、大変に難しくなるのです。

### 3. 全長 1 c mの虫ピンを撮影してみよう（一眼レフ）



全長 1 c mの虫ピンの頭、直径約 2 mm にピントを合わせます。

（虫ピンは、当日私が持参します）

定規撮影時のピント合わせよりはるかに難易度が上がります。

A Fでセンターを使う場合は、おおむねピントが合うと思いますが、センター以外のA Fセンサーでは、ピントを合わせるのには厳しいと思われます。



私は、ライブビューを使用して、ピント位置を指定し、拡大表示します。

拡大した後、マニュアルフォーカスにして、ピントを合わせます。

一番下の画像が、拡大した状態です。



一眼レフでは、使用するレンズにもよりますが、センター以外のA Fポイントでピントを合わせるのには難しいと思われます。

ファインダーを覗いてのM Fもかなり難しいので、ライブビュー機能で、拡大してピント合わせすると良いでしょう。

撮像素子の大きさによって「ぼけ」具合が異なることは、以前お話をしました。最終頁に一眼レフの大きさを比較した資料がありますので見てください。今回のマクロ撮影でも撮像素子の大きさが関係しています。撮像素子の大きい一眼レフの方がピントが合う範囲が狭くぼけが大きくなるので、決まれば、大変印象の強い作品を創れる可能性が大きいのです。



#### 4. コンパクトカメラでもやってみよう



PowerShot G10の広角側マクロで撮影してみました。

レンズの前1 c mでピントが合います。

一眼レフと比較するとピントの合っている範囲が広いのがわかりますか。

コンパクトカメラのマクロ撮影は一眼レフよりとても易しいのですが、ぼけないので、被写体選びと構図に工夫が必要です。



これは、全長1 c mの虫ピンの頭、直径約2 mmにピントを合わせているところです。

緑色の四角形がA Fフレームで、下の画像のように、A Fのフレームの大きさは小さくして、ピント合わせをする箇所を絞り込むことも可能です。

このA Fフレームは画面の中の殆どの範囲に移動することも出来ますので、日の丸構図からの脱却も容易です。



ここで、突然ですが、コンパクトカメラを選ぶ時の優先事項を記載してみます。

A Fフレームを中央以外のどこにでも移動できる。

レンズ前1 c mの位置でもピント合わせができる。

手ぶれ補正のききが良い。

露出補正がワンタッチでできる。

一眼レフでは、 を除いて、全ての機種がその機能を備えていますが、コンパクトカメラでは、上記 ~ ができる機種は限定されます。コンパクトカメラ買換え時の参考にしていただければと思います。

## 5. コンパクトカメラ作例



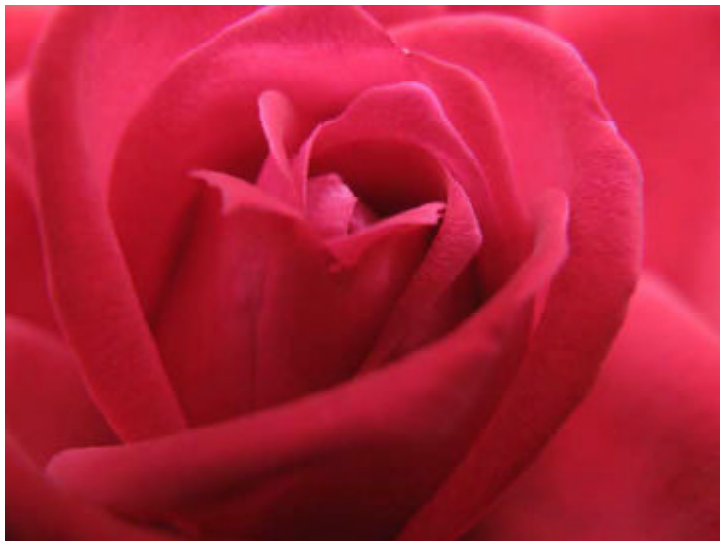
PowerShot G10の広角側マクロでの撮影です。

ばらのしべとレンズとの距離は、2 cm 程度に近寄って撮影してます。

絞りは、広角端開放のF2.8です。

また、ピント合わせをしたバラと背景との距離はかなり離れています。

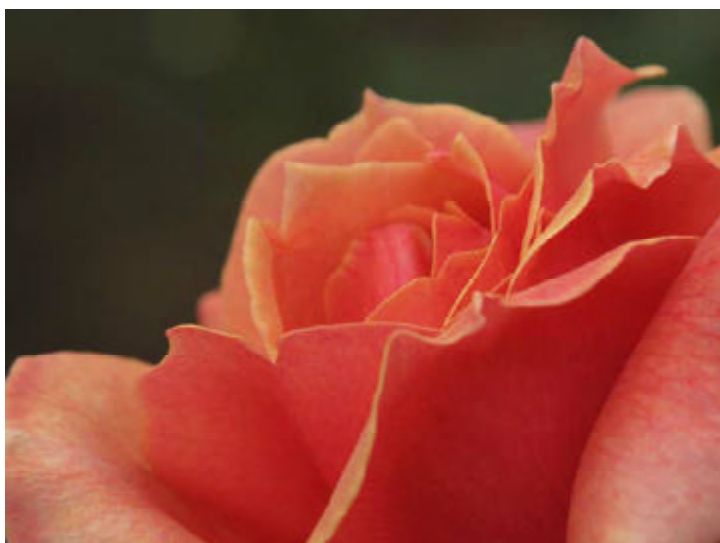
コンパクトカメラでも、被写体を選べばこのような撮影ができます。



同じくPowerShot G10の広角側マクロで撮影しました。

今度は、バラの中心を、背景が写り込まない範囲まで近寄って撮影してます。

レンズ前1 cmまで近寄れる機種だからこのような構図で撮影できました。



同じくPowerShot G10での撮影ですが、この場合は、クローズアップレンズを使って、最望遠端で撮影しました。

PowerShot G10 には、レンズに取り付けるアダプターがありますので、それを使用して、クローズアップレンズを取り付けます。

コンパクトカメラは、被写体の状態を選びますが、上手に選べば、印象的なマクロ撮影ができますので、是非、挑戦してみてください。



## 5. おまけ



LumixG1に、マウントアダプターを介して、フィルム時代の OLYMPUS 50mmF1.4 を装着しました。

マニュアルフォーカスですが普通に撮影できます。

レンズは中古ジャンク品なので1000円で買いました。

ここまでは面白くも何ともないのですが次の画像を見てください。



リバーサアダプターを使用してレンズを逆に取り付けると不思議なことが起こります。



先ほどの定規が、このように大きく撮影できるのです。

究極のマクロ撮影といえるのではないのでしょうか。

ピント範囲は極めてシビアで、1mmあるかないかですが、ちょっとした拡大鏡がわりにどうでしょう。

この拡大率は、逆さまに取付けるレンズの焦点距離が小さいものほど大きくなります。

フォーサーズの撮像素子は35mm版フルサイズ撮像素子の面積の約  $1/4$  です。この小さい撮像素子がもたらすメリットの第一はマクロ撮影が、35mm版フルサイズ版より簡単にできることです。また撮像素子が小さいのでレンズも小さくて、カメラシステム全体が軽くなります。

フォーサーズの撮像素子のデメリットも沢山ありますが、それは次の機会です・・・。